

知事との県民対話集会（白馬村）概要

- ・ 開催日時 令和4年12月10日（土） 午前10時から午前11時30分まで
 - ・ 会場 白馬村役場 201・202会議室
 - ・ 参加者 県民21名、丸山白馬村長、阿部知事、早川北アルプス地域振興局長
 - ・ テーマ 冬季観光シーズンにおける感染症対策について
- ・ 主な発言（要旨）

【参加者】

・ 感染症対策と観光地としての受入のバランスに苦慮している。観光県長野としての方向性は。

【知事】

・ 新型コロナは、波ごと対策が変わってきており、現在の第8波も11月をピークに減少基調であるが、年末年始を迎えるので状況を注視している。
・ 全国旅行支援やプレミアム食事券により、経済のアクセルを踏んでいるところ。一方、医療機関は依然として厳しい状況であるため、一人ひとり万全の感染対策をお願いしたい。

【参加者】

・ 新型コロナの飲み薬の開発はどのようになっているか。
・ 新規陽性者数の発表が広域単位となったため、情報をどのように活用すればよいか分からない。

【知事】

・ 飲み薬開発の進捗状況は把握していないが、重症化リスクの高い方は早めの受診とワクチン接種をお願いしたい。
・ 感染者数は、増えつつあるとか、他の圏域より多い、少ないというように、ざっくりとらえていただければと思う。やっていただく感染対策は同じ。

【参加者】

・ 全国知事会等でコロナを第5類とするよう強く要望してほしい。
・ データに基づき、県民の不安を払拭するよう発信してほしい。

【知事】

・ 知事会では、国が早く出口戦略を示すべきと言っている。いきなり5類に変わっても混乱をきたすので、2類、5類ではなく別の分類を作ったほうが良いのではないかと感じている。
・ 国から示されるデータが少なすぎる。国がデータを分析し公表することが大前提としてあるべき。

【参加者】

・ マスクを当たり前のようにつけている現状を変えるため、マスクをしなくていい状況であれば、マスクをせずにメディアに出るなどしてはいかがか。

【知事】

・ 多くの人がいる時は誤ったメッセージを発信する恐れがあるため、慎重な対応をしている。演台で話すときは外しているし、画一的な対応をとっているわけではない。

【参加者】

・ 国のインバウンド対策は、どこで誰が決めているか分からない。行政への信頼感が低下している。

【知事】

・ 信頼感は非常に重要で、私も頻繁にコロナの会見を行っている。意思決定のプロセスが見えないことが信頼を下げている原因。知事会でも発言していきたい。

【参加者】

・スキー場のリフトやレストハウスといった施設の老朽化が大きな課題であり、国の補助金も十分とは言えない。県としてスキー場の支援をどのように考えるか。

【知事】

・スキー場支援のあり方を考えるよう観光部に指示している。赤字補填的な税金投入ではなく、地域の基幹産業という観点からの検討が必要。国際競争力を高めるという意味では、国のさらなる支援が必要とも考える。

・論点が多いので、時間はかかるかもしれないが、検討の場を作って進めたい。

・世界水準の観光地を目指す上で、観光財源の確保が必要であり、観光振興のための税金について検討を始めている。一緒に考えてほしい。

【参加者】

・歩いているとごみが多いことに気づく。自然の中で生かされているということを子ども達にも残したいという思いから環境美化活動を行っている。

【知事】

・そういった活動は元気づくり支援金などで応援していきたい。

・長野県の価値は見た目だけではない「美しさ」。その価値を向上させたい。

・本県は、自然を生業にしている人が多い。環境との共生を県としてもしっかり取り組みたい。

【参加者】

・観光地においてレスプラスチックの取組が重要と考えている。県からもわかりやすく発信してほしい。

【知事】

・県ではプラスチックスマート運動を実施している。観光地における環境の取組は重要と感じている。目立つやり方を考えたい。

【参加者】

・集団の中で適応できない子が増えている。支援学校に行くには能力が高く、一般のクラスでは難しいため、中間教室の設置が必要と考える。また、支援学校を希望しても入れないほど教員が不足している。教育の現状を知ってほしい。

・白馬高校の存続に向けて、様々な面で支援をお願いしたい。

・女性が住みやすい地域は、子どもを育てやすい地域だと認識している。信頼できる教育機関や医療保障などが重要ではないか。

【知事】

・教育委員会の所管であるので明確には言いづらいが、教員配置のあり方について真剣に考える必要があるし、多学年で学ぶ、発達が遅れている子を他の子が見るなど、画一的な教育を打破したいと考えている。

・白馬高校は、県立高校としてこれからどうしていくのか検討を進めていきたい。地域の皆様の負担や協力のあり方についても整理しないとイケない。

・若い世代の教育への経済負担をどう軽減するか。市町村がいろいろ取り組んでいる中で、県としてどこをサポートすればいいのか、考えていきたい。

【参加者】

・白馬高校スキー部への支援や、白馬村においてスキーは文化という概念のもと、スキーを長く続けられる環境づくりに協力してほしい。

【知事】

・地域の強みをどうやって社会の維持・発展につなげていくかを考えたとき、白馬村においては、スキーが中心にあると感じた。地域振興局も入って、一緒に考えていければと思う。

【参加者】

- ・白馬高校学校運営協議会の委員をしている。白馬高校の存続のためには生徒数が160名を超えることが必要で、これをクリアしないといけない。この基準を再考してほしい。
- ・白馬中学校で熱心にスキーに取り組んでいた子が白馬高校のスキー部に入ってくれないという問題がある。地域で学んだ人材がスキー場産業には重要。高知県や北海道では中高連携に取り組み、成果をあげている。中高連携を強く推進してほしい。

【知事】

- ・教育委員会にはもっといろいろなアイデアを出すよう投げかけている。今の高校再編は特色がよくわからない。特色の一つは白馬高校が行っている全国募集。白馬高校の全国募集がうまくいかないと、他の高校にも波及できないと考えている。
- ・白馬高校の取組はケーススタディ的にも重要。ぜひ両村と一緒に、地域振興局長も入って考えていきたい。白馬高校をどうするかは、この地域における最重要課題だと思っている。